

っているんです。なので、あそこだけではやっぱり少ない、実際に避難所となった場合は体育館機能というか、今のやつも使わざるを得ないところも出てくるのでないかなというようなちよっとお話をさせていただきました。

内谷市長の選挙用の法定ビラ、これの裏面を見ますと、長井コンパクトシティと小さな拠点のイメージ図で、非常に説明でもわかりやすくなっているわけですが、それぞれにコンビニ機能。そういえば防災、福祉、コンビニ機能だ。

先ほど川西町の吉島地区のお話がありました。今回、山形新聞で、山形の平成の特集というか、平成の総集編という格好で吉島地区が、県の地域の先端を行っているというようなお話ですけれども、各地区、前にも、去年あたりもお聞きしたんですが、コミュニティセンターについては、最終的にNPO法人といった、そういった法人格を有する組織としていってもらったほうがいいのかどうかという、その辺のところについて最後に市長の見解をお聞きしたいというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** 平議員おっしゃるように、いわゆるそこで働いていただいている主事の方含め、館長さん、あるいはさまざまな収益事業などもコミュニティビジネスとして考えられるんですね。そういったことを考えますと、やはり法人化したほうがいいだろうと。その場合はNPOで、なおかつきりよしじまみたいに地域の人たちのみんな総意でNPO、みんな出資して、私はお客様だと、私は地区民だから、地区でやれというんじゃないで、一緒に自分も参加して地域づくりをやっていくんだという意識を持っていただけるような、そんな組織が望ましいと思っていますのでございます。

○**渋谷佐輔議長** 5番、平進介議員。

○**5番 平進介議員** ありがとうございます。

夢のような事業、先ほど西根の紹介をさせて

いただきましたが、牧場とかワイン醸造とか、そうしたものについて、地元の人たちが一生懸命考えているわけですけども、先ほど市長からありましたとおり、例えば地場産が事業を展開するというふうなお話もやっぱり一つの方法かなというふうにも思いますので、ぜひ今後とも、担当職員の方もいらっしゃいますけども、サポートしていただいて、地域づくりがうまくいくようお願いをしたいと思います。

以上で私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○**渋谷佐輔議長** ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

午後 3時00分 休憩

午後 3時20分 再開

○**渋谷佐輔議長** 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 鈴木富美子議員の質問

○**渋谷佐輔議長** 順位5番、議席番号6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 長井創生の鈴木富美子でございます。本日最後の質問となりますので、明確なご答弁、よろしくお願いいたします。

市長におかれましては、4期目の当選、おめでとうございます。今後、市民が幸せに暮らせるまちづくりにご期待申し上げます。

それでは、通告に従いまして質問させていただきます。

第1項目、9月議会において、2020東京オリ

ンピック・パラリンピックに向けて、関係する課を統一したほうがいいのではないかとの質問に対し、市長からは、庁内を横断的にオール長井で取り組んでいく旨の答弁をいただきました。このたびの長井マラソン大会における取り組みはどうだったのか、課題はなかったのかなどを検証し、オリンピック・パラリンピックを通して国際交流に寄与していけることを願い、質問させていただきます。

1 番目、10月21日に行われた長井マラソン大会が成功裏に終了したことをお聞きしておりますが、前年比で参加者がどれくらいふえたか、どんなところがよかったか、問題点はなかったのか、生涯スポーツ課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** 鈴木富美子議員のオリパラへの取り組みについてというところで、長井マラソン大会に関連する部分のご質問でございます。

最初に、今回の長井マラソン大会の参加人数、さらにはよかったところ、さらには問題点というふうなご質問ですが、平成29年度はフルマラソンに434人、ハーフマラソンに123人、合計で557人でした。平成30年、今回でございますが、フルに547人、ハーフに124人、10キロ、77人で、ここまでの合計が748人でございます。比較いたしますと、率で約3割、191人の増というふうになります。さらに、オリパラのイベントとして3キロを行いましたけれども、これにつきましては市民対象でございますが、139人ご参加いただきました。総計といたしましては887人、330人の増加というふうになっております。

続きまして、今回よかった点でございますけれども、1点目につきましては、瀬古さんとイカンガーさん、さらにはタンザニアの選手団をお招きして、前日から講演会、レセプション、

そして大会当日のスターター、あるいはスタート地点へ並走して入場していただくというようなことを行っていたり、あるいは入賞者への表彰もしていただきました。この大会、非常に中高年の参加率が多い大会でございますので、非常に喜んでいただいたことなどが上げられます。

また、2点目につきましては、国際陸連の認定コース、このたびなっただけですけれども、海外の登録選手につきましても、出身国などで記録が公認されるというふうなことになりましたので、参加選手にとりまして、より好記録への励みになったのではないかとというふうに思います。

3点目は、参加者がこのたびふえましたし、さらには走力が非常に高いタンザニア選手が参加するというようなこともありまして、事故が起これないようにというふうなことで、細心の準備をいたしました。幸い無事故で、先ほど鈴木富美子議員おっしゃいましたように、成功裏に終了することができたというふうなことが上げられます。

さらに、5キロごと、このたび初めてラップ計測を導入いたしました。それから、休憩用の大型テントを設置しました。さまざま改善いたしましたけれども、総じて参加者の皆さんや応援でお越しの方々により評価をいただいているところでございます。

また、情報サイトに寄せられている参加者の声でございますけれども、何といたしましても沿道や給水所の皆さんからの温かい応援がうれしかったというふうに感想が寄せられています。ご声援、ご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。

一方、問題点、改善点でございますけれども、まず1点目は、今回も安全対策として一部の区間に通行制限を設けさせていただきました。しかしながら、制限がかかってない区間では、選

手の声といたしましては、後ろから車両が追い抜いていくわけでございますけれども、その車両が怖かったと、コース全体に一定の通行制限をしてほしいというような要望も寄せられていますので、次回大会に向けて検討が必要というふうに思っているところでございます。

また、2点目は、募集開始の時期でございますけれども、これも参加者の方からといいますか、要項を見た方からは、既にほかの大会に申し込みしてしまったと、長井に出たかったのというような声をお聞きいたしましたので、せめて開催地、期日など概要につきましては、少なくとも半年前にはお知らせしていきたいというふうに思っているところです。

3点目は、大会運営の体制でございますけれども、今回も選手、車両の誘導、さらには給水所と、多くの皆様からご協力をいただきましたけれども、運営の人員につきましては、それでもぎりぎりというような状態でございます。より多くの選手をお迎えするというようなこととなりますので、次年度に向けまして、スポーツボランティアの募集などを行いながら、スタッフの確保、充実も必要というふうに感じております。

ほかにも地元食をどう出すかとか、観光との連携などもございますし、いろいろ課題は多くありますけれども、次回大会に向けて改善を図っていききたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 大変ご苦労なされて、すばらしい大会だったなと私も思います。課長がおっしゃるように、課題はいろいろあると私もボランティアしていて思いましたので、ぜひその点は改善していただいて、よりよい大会に今後も続けていただければと思います。

次、2番目ですが、このたびタンザニア共和国の選手が走りまじったけども、市民の反応はど

うだったのか、スポーツ課長がわかる範囲で教えていただきたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** お答えいたします。

今回の長井マラソンでの市民の皆様の反応というようなところでございますけれども、特に聞き取りは行っていませんので、それを前提にお話しさせていただきますけれども、一つには、沿道で応援された方からですけれども、率直に、タンザニア選手の走る速さ、非常に速いので、びっくりしたというような声が一番多かったというふうに思います。また、交流面では、小・中学校への訪問やランニング教室を行いましたけれども、子供から大人まで非常に興味を持って楽しい時間を過ごさせていただいたというようなお声をいただいております。総じてこのたび大会が非常に盛り上がったのではないかとというような高い評価をいただいているところでございますし、イカンガーさん、瀬古さん、タンザニア選手団の大会参加によりまして、これから迎えるオリパラ、あるいは市民1人1スポーツの推進につきましても関心が非常に高まったのではないかとというふうに思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 本当に沿道で応援される方は、わあ、すごいという声で走り去る選手を見て応援なされていたようですが、私はまだまだ市民に伝わってないところがあると思いますが、課長はどう思われますか。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** 鈴木富美子議員おっしゃいますように、私どものほうでもできればもうちょっと沿道に出ただけのようにすべきだったかなというふうに反省をしているところでございます。大会のホームページ等々、あるいは広報車でお知らせはしていますけれども、なかなか浸透という面では足りなかったかなというふうに思います。次回大会に向けまし

ては、さらに工夫を重ねまして、できるだけ多くの方々に見ていただくよう、応援していただけるように努力をしまいたいというふうに思っているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 長井市の特徴にしていくには、やはり市民に訴える力も必要だと私は思いますので、ぜひその点を踏まえて、来年に向けて頑張っていたきたいと思います。

3番目に入ります。

先ほど748人のエントリーがありましたということをお聞きしました。県外からの参加者が約半数と多い中、長井にお泊まりいただいた人数は把握していますでしょうか。把握できなかった場合は、今後調査する考えはあるのか、生涯スポーツ課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** お答えいたします。

今回、県外からお越しになった方の人数でございますけれども、28都道府県から375人の方に参加をいただきました。主なところでは、宮城117人、東京54人、新潟42人、福島からは35人などでございます。

また、前日のイベント、行いましたけれども、大会参加者以外の方も多く参加なされている状況です。

選手の宿泊につきましては、運営側といたしましては、宿泊のあっせんまでは行っていませんので、正確な数字については不明でございますけれども、市内の旅館、ホテル13カ所にマラソン関連の宿泊数についてお問い合わせをしたところ、明確にマラソン目的として宿泊なされている方については、8施設に54組、63名でございました。ほかの5つの宿泊施設につきましては、明確に何人であったかわからないというような回答でございました。

次回に向けてというようなことでございますけれども、宿泊先も含めて、大会全般について、

参加者に対してアンケートを行いながら、動向あるいはニーズを探って、さらなる大会の充実に努めたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。

その日は同日に別の予約で宿泊が困難だったとお聞きしておりますが、シティーマラソンと比べてマラソン以外のことを開催地で楽しむ方は少ないと思いますが、好記録のために前日から準備をしたいという方もいらっしゃると思います。何といたってもせっかく長井に市外からお越しいただくよい機会なので、少しでも長井に滞在していただきたいと私は思います。そして長井のよさを思っていただけのような、スポーツを通した観光も大事だと思いますので、その点、次年度に向けてぜひ力を入れていただきたいと思います。

4番目に入ります。宿泊について、やまがた長井観光局との連携はなかったのでしょうか。今後、チラシやホームページに掲載し、連携していく考えはないでしょうか。生涯スポーツ課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 沼澤孝典生涯スポーツ課長。

○**沼澤孝典生涯スポーツ課長** お答えいたします。

このたび大会要項を決定する実行委員会の際に、宿泊等々について、旅行商品の準備できませんかというふうなことで観光局にお願いした経緯がございます。残念ながら今回は見送りになったというふうなことでした。ただ、要項には宿泊のお問い合わせ先というようなことでは、やまがた長井観光局の連絡先、情報を掲載いたしまして、参加希望者に周知をしたところでございます。

また、このたびの状況について、観光局にお聞きしたところ、問い合わせが合計8件ございまして、内訳につきましては、宿泊関係が7件、長井まち歩きが1件というようなことでございました。

議員おっしゃいますように、スポーツツーリズムの面からも観光との連携は大変重要だというように思いますので、なお一層次年度に向けてまして連携を強めてまいりたいというふうに考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。少しでも問い合わせがあったということは、長井に泊まっていただけるという可能性があると思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

5番目に入りますが、先ほど言ったように、長井市の宿泊施設がいっぱいだったということも兼ねまして、近隣の町へあっせんするなど、この地域連携DMOを活用してはどうなんでしょうか。商工観光課長はどう思われますか。

○**渋谷佐輔議長** 赤間茂樹商工観光課長。

○**赤間茂樹商工観光課長** 地域連携DMOの業務といたしましては、当然会員の中には旅館組合さん等も入ってきますし、かつ来年度につきましては、南陽市、白鷹町、飯豊町さんもその会員の中に入るというふうなことで、業務の一つとしては、宿泊を手配するというのももちろん行ってまいりたいと思います。ですので、先ほどの生涯スポーツ課長の答弁にもありましたように、大会を運営するに当たりまして、どのようにその辺をPRできるかというふうなことが課題かなというふうに考えております。

なお、地域連携DMOといたしましては、できれば地域の経済効果、これを求めたいというふうに思っておりますので、ご提案ありましたような例えば温泉とパックにしたような大会参加とか、そういったものも今後検討しなければならぬのかなというふうに考えているところでございます。

なお、大会参加者の中には、それこそ競技志向の方もいらっしゃると思いますが、そのほかにも趣味や旅行がてら参加する方もいらっしゃるかと思いますので、そこは今度、旅行業2種

の資格をフルに発揮するとすれば、発地からそういった勧誘も、パックの勧誘というものも考えられることですので、来年度に向けて検討してまいりたいなというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** やはり観光にもつながるというスポーツ観光もありますので、ぜひ旅行商品を組んでいただいて、走るだけでなく、この置賜、特に長井のよさをわかっていただきたいと思いますので、地域連携DMOに関する期待をしたいと思います。ぜひよろしくお願ひします。

通告書に書いている6番ですが、順番をちょっと変更させていただき、最後にさせていただきたいと思います。

7番目に行きます。今回のタンザニア選手団の訪問を受けまして、市内の小・中学校への学校訪問の様子や、生徒みずからタンザニアの国旗が描かれた手旗を作成し応援するなど、報道を通じて紹介されました。英語教育に力を入れている長井市にとって、国際交流は子供たちの未来に意味深いものになると考えられます。学校現場で子供たちが主体的に取り込めるようなことはできないでしょうか。例えば高畠町の町立小・中学校全校や県立長井工業高校など、オリパラ教育実施校の指定を受け、授業で使う教材の提供や大会の出場経験者と交流し、子供たちは友情や敬意、平等といった大会の価値観について取り組みを実践しているとお聞きしております。長井市としては、検討などは行ったのでしょうか。学校教育課長にお伺ひいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田 洋学校教育課長。

○**竹田 洋学校教育課長** それでは、鈴木富美子議員の質問にお答えします。

平成29年12月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より、東京2020教育プログラムとして、学校の授業や教育活動をサ

ポートする際の教材、学校で行う大会に関する授業の認証を行う目的で、オリパラ教育実施校の指定に関する募集事業が展開されました。実施校としての指定を受けますと、東京2020のマスコットであるミライトワやソメイティの使用許可がおりたり、授業をサポートするための教材や選手派遣のイベントの案内などが届いたりすることとなっています。

その12月の時点で市内の学校においてご検討をいただき、市内の小学校6校全てがオリパラ教育実施校としての参加、登録をしていただいているところです。その後、さきのマスコットを選定するクラスごとの投票にも応募、参加していただき、大会に向けての意識づけや興味、関心を引き出す活動を進めているところです。

加えて、中学校においては、29年度よりタンザニアの使節、選手団の受け入れや交流事業を展開していただいております。

今後も地元においでになる外国の選手団との交流や国際理解教育などを通して、同大会の意義や価値について学んでいく活動を大切にしていきたいと考えております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ご答弁ありがとうございます。すごく子供たちにとっても素晴らしいことだなと私も思います。そういう取り組みに対して、子供たちの反応というのはどうだったのでしょうか。学校教育課長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田 洋学校教育課長。

○**竹田 洋学校教育課長** このたびマスコットの選定をさせていただきました。全ての長井市内のクラスごとになりますけれども、子供たちがミライトワやソメイティ、こういうふうなマスコットがいいねなんていう話題をしながら、一人一人が投票したり、クラスごとで話し合ったりということが行われております。加えて、今回、先ほど議員のほうからもありました、タン

ザニアの選手団の皆さんと給食を一緒に食べるというような活動を小学校、中学校で展開をさせていただきました。身近に外国の選手と触れ合うことができる、そして食べ方や食べ物に対する考え方などで、それぞれの地域や特性があるんだなということによって新しい発見があったりと、子供たちにとっては素晴らしい教育の機会をいただいたというふうに感じております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 本当にいいことだなと思います。子供たちが長井にいながらにして海外の人と交流できるというのは素晴らしいことだと思いますので、ぜひオリンピック・パラリンピックが終わってからも続けていければと思いますので、よろしくお伺いいたします。

8番目に入ります。2020オリンピック・パラリンピック開催以降を見据えた文化プログラムの取り組みについてお伺いいたします。

長井市でもビヨンド2020などの認証を受け、さらなる取り組みを推進するためにも、せっかく文化生涯学習課に文化係がありますので、主体的に取り組むべきと思いますが、教育参事のお考えをお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人教育参事。

○**川村直人教育参事** 議員ご承知のとおり、文化プログラムにつきましては、オリンピック憲章の中で実施することが義務づけられている取り組みになってございます。これについては、オリンピック・パラリンピックがスポーツの祭典ということだけではなくて、文化、そして交流などを通じて平和や相互理解を深めるという目的で設置されているものでございます。2012年、イギリスのロンドンでオリンピック・パラリンピック開催されたわけですが、ロンドンだけではなくて、イギリス全土で約11万7,000件ほど文化プログラムが実施されてございます。延べにしますと4,000万人を超えるような参加があったということで、大変成果があった取り組み

になってございます。

東京オリパラのほうでの文化プログラムということで、議員から今お話があったビヨンド2020という取り組みがありますけども、これについては、伝統的な芸術であったり文化であったり、また、お祭りといったものを初めとして、日本文化のさまざまな魅力を発信する、そういった事業や活動、さらには障害者や外国人にとってのバリアであったり言語の壁を取り除くというような取り組みをあわせた事業を内閣官房の東京オリンピック競技大会、東京パラリンピック競技大会の推進本部事務局のほうで認証しております。文化庁でカルチャーニッポンというプラットフォームを構築しております。そちらのほうで、日本語はもとより、フランス語、あと英語、韓国語、そして中国語ということで、合計5カ国語の対応で紹介しております。また、認証マークを使用することを認めるといった取り組みも行われているところでございます。11月9日現在、日本全国で8,107件ほどビヨンド2020の事業として認証されてございます。

また、日本文化の魅力発信はもとよりですが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの後を見据えたレガシーといえますか、いわゆる次世代への財産の創出のために取り組みをすることも大事な意義になっておりますので、そうしたことから、文化活動のみならず、地域性が豊かで多様性に富んだようなさまざまな取り組みが認証されているところでございます。

参考までに、山形県内におきましては、日本一の芋煮会フェスティバルであったり、農林水産祭、あと産業まつり、あと収穫祭、あと上山市でやっているかかし祭などを含めて、幅広い分野で認証をいただいているところでございます。

長井市におきましても、2017年度から認証をいただいております。リサイクルであったり講演会、あと白つつじまつり、あと黒獅子まつ

り、あとあやめまつり、水まつりなどなど、合計で長井マラソンを含めて12件ほど認証いただいているところでございます。

ビヨンド2020につきましては、オリパラを契機として、先ほど申しましたように、後世に伝えていこうというような取り組みを強化をしていかなければならない取り組みになっておりますので、議員からありましたように、文化生涯学習課の文化係に係る事業ももちろんあるわけでありまして、やっぱり全庁的、またこの取り組みについては営利事業であったり、非営利事業であったり、そういったものを問わない取り組みになっていきますので、やっぱりオール長井で広く取り組みを強化をしていくべきものだというふうに思っているところでございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。本当にいろんな分野があるとお聞きしましたので、長井市の全てではなく、やはりある程度絞るといいう方は変ですけど、これに関してはずっと続けられるよというようなことをきちんとした形でしていったらいいのではないかと思います。参事はどう思われますか。

○**渋谷佐輔議長** 川村直人教育参事。

○**川村直人教育参事** 議員おっしゃるように、オリンピック・パラリンピックを契機として、その後に残していくレガシーの創出にも重要な取り組みの一つでありますので、継続してこうした取り組みを進めるためには、市役所だけではなくて、一般市民の方を含めた幅広い取り組みが必要だというふうに私のほうは思っております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ぜひそういった大事な活動をこれからも続けていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

9番目に入ります。ことしの長井マラソン大

会には、国際協力機構、JICAですが、タンザニア事務所の広報大使を務めるジュマ・イカンガーさんが、先ほどスポーツ課長がおっしゃられましたが、いらっしゃいました。長井市で事前に合宿を行ったわけです。そして道の駅や大会会場となった生涯学習プラザでは、JICAの取り組みを紹介するパネル展なども行われました。イカンガーさんは、女性の地位向上を目指した女性アスリート発掘事業に取り組んでいることも紹介され、今回参加された女性アスリートの方が入賞され、選手にとっては励みになったと思います。これは長井市とJICAとの連携を象徴する取り組みだったのではないのでしょうか。この機会に、この連携を強化していく必要があるのではないかと思います。市長はどのようにお考えでしょうか。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** お答えいたします。

議員からは、長井市とJICAの連携強化をしていく必要があるんじゃないかということですが、長井市とタンザニアの交流では、JICAを初め、両国の外務省や大使館、また山形タンザニア友好協会など、多くの方々のご協力があってこういったさまざまな事業が展開できたということで、改めて感謝しているところでございます。

特にJICAの皆様には、昨年20名の市民訪問団とともにタンザニアを訪問した際にも、陸上や水泳、柔道、野球の各競技団体との面談、あるいはオリンピック委員会等々、JICAのタンザニア事務所で全て段取りをしていただきまして、非常にスムーズにいろんな話し合いをすることができました。長瀬さんという所長さんと、それから当時は長井出身の梅津さんもいらっしゃったということで、非常に親身になってご協力いただきました。そんなことで、実は長井の2020のオリパラのホストタウンのキックオフイベントとして、JICAの北海道の次長

さんとかお越しいただいて、野球の話をしていただいたりとか、さまざまな仲介をしていただいて、非常にうまくいっていると思っております。このたびの長井マラソンに当たっても、JICAのタンザニア事務所の広報大使をなさっているということで、ジュマ・イカンガーさんとの仲介を全面的にバックアップしていただいたり、円滑に選手団が長井に来ていただくことができたのもJICAの支援があつてだと、重ねてではございますが、そのように感じております。

さらには、タンザニア選手の致芳及び西根小学校の訪問時には、青年海外協力隊OBの方々に通訳のご協力をいただきました。また、長井マラソンの開催にあわせ、連携事業といたしまして、これは鶴岡ご出身だという加藤アフリカ部長や須藤東北事務所長など、延べ14名の関係者にJICAのほうから参加いただきまして、JICAの、議員からもあつたように、取り組みを紹介するパネル展を川のみなと長井やら生涯学習プラザで実施し、多くの方々にごらんいただいたと思っております。

さらには、10月24日、先月の末ですが、JICAの北岡伸一理事長、なかなか理事長とはお会いできないんだそうです。イカンガーさんと一緒にということで私もお会いできましたし、あとは東京オリパラの担当大臣とお会いしたりとか、あるいはアフリカ担当の鈴木規子理事、女性の唯一の理事だそうですが、2回ほどお会いしていろいろなアドバイスいただいておりますが、そういった意味で、JICAの協力がなければできなかったと思っております。それだけJICAとしては、開発途上国の中でもアフリカに力を入れたいと、アフリカのホストタウンをしている市町村は数少ないんですけども、そういった意味では長井にまずモデルとして協力しながら、全国にもっとアフリカのホストタウンをふやしたいという意向があるのかなというふうに思っているところでございます。



タンザニアのホストタウンに取り組むきっかけとなったのも、長井の青年海外協力隊員がお嫁さんをタンザニアから迎えたということに端を発したものでございまして、国際化、グローバル化の時代に立ち向かえるような青少年の育成のためにも、今後もより一層国際協力機構 JICA との連携を深めていきたいと考えております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 10番目に入ります。

オリパラ事業の中で、先ほど参事がおっしゃったレガシーという言葉はよく出るんですけども、これは大会の遺産という意味であり、国際オリンピック委員会のIOCが最も力を入れているテーマの一つになっております。来年は日本でアフリカ開発会議が開催されます。これはアフリカ各国の首脳が一堂に会し、アフリカの発展や日本との協力関係について話し合う大きな国際会議であります。2019年は国内においてもアフリカが注目されることとなると思います。長井市でもタンザニアとの協力関係を一層深め、長井市のレガシーにしてはどうでしょうか。市長のお考えをお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** まず、端的に言って、鈴木議員おっしゃるとおり、ぜひレガシーにしたいと。ただ、2020年の東京オリパラの際に、タンザニアの選手団の方、それ以前にも合宿とかお願いしたいと思っておりますが、やはり彼らの目的は東京オリンピック・パラリンピックで、国の威信をかけて、いい成績をとらなきゃいけないと、そのために我々は手伝うということですので、なかなか市民との交流は難しいだろうなと。今回も1週間程度の短い時間の中で、各小学校とかお願いして回っていただきましたけど、少なからず負担にはなっているなど。でも1カ月ぐらいのじゃあ合宿を受け入れることができるかという、これからの課題とか、あとスポ

ーツ施設の状況にもよるんだと思っております。したがいまして、アフリカはこれから必ず日本のよきパートナーとして、我々はもちろんですが、我々の次の世代、さらに次の世代には本当にいい関係にしていかなきゃいけない。我々はその先鞭を切るような、そんな意気込みでやりたいと思っております。

一方で、長井の初めての国際交流はドイツのバートゼッキンゲンであり、やっぱり中国の双鴨山市であり、こういった国々の人たちとも、これはレガシーとしてする場合は、2020年をレガシーとしたときに、そういった国の市民の皆様、行政だけじゃなくて、そういったことが市内の皆様との交流をして、本当に真の国際交流のスタートにしたいと。

したがいまして、以前から申し上げてますように、ゼッキンゲンの姉妹都市であるフランス、イタリア、スイス、オーストリア等々の姉妹都市にも呼びかけて、そういった国々はやはり市民の皆様がむしろ日本に来たいと、ですから長井を基地にして、オリンピック・パラリンピックを楽しんでいただくのはもちろん、文化プログラムもぜひごらんいただく。また、市民としっかりといろいろな形で交流できるような、長期の滞在できるような我々も準備をして、そしてオリンピック・パラリンピックでは、タンザニアですが、市民との交流、真の国際化のスタートは2020年のそういった世界各国の市民の皆様と長井市民が、あるいは子供たちがいろいろ交流するということからレガシーということにしていきたいなと考えているところです。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 市長、ありがとうございます。市長がおっしゃるとおりだと思いますので、ぜひこれを機会に国際交流に力を入れていきながら、将来の子供たちのためにも頑張っていっていただきたいと思っております。

通告の6番目に戻りますが、このたびの長井

マラソン大会の準備を進めていく中で、生涯スポーツ課と総合政策課の役割分担が不明確だったり、役割が重なったり、ともに取り組む業務があったと思いますが、今回の一連の取り組みを今後どう総括していくのか、市長にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** これは以前にも鈴木富美子議員から、東京オリパラの担当課をつくったらいいんじゃないかというご提言いただきましたけども、なかなか難しいと。それはなぜかという、例えば今回ホストタウンの一連の事業として長井マラソンをやったわけですが、それに招待選手ということでやったんですが、その全体のプロデュースは総合政策課だと。長井マラソンの部分と、あとは教育委員会、生涯スポーツ課だけじゃなくて教育委員会全体として子供たちの交流とか、さまざまところをやったと。一緒にやらないと、とてもとてもできないと。例えば新たに課をつくったら、二、三人で課をつくってしょうがないわけですね。かといってじゃあかかわる人みんな全てで、例えば10人ぐらいで課をつくれるかといったら、うちの組織ではとてもとても難しいです。あと総合政策課の中に、特に外国語に堪能な職員が何名か、あと国際交流員、スポーツ国際交流員も総合政策課にいるわけですね。でもスポーツ課、長井マラソンを含めて、スポーツの専門は、やっぱり一番ノウハウを持っているのはスポーツ課で、お互い協力し合わないといけないものがたくさんあったんですね。例えばスポーツ課のほうも忙しかったもんですから、マラソンの国際公認のコースをなかなかそこまで手回らない。なもんですから、私と地方創生参事で相談しながら出向いてお願いしてきてとか、そういうことを手分けして、ここの部分は副市長にお願いして、こっちは教育長にお願いして、これは教育参事、こっちは総務参事、地方創生参事とか、そうい

うふうにして総合的に横の連絡をとり合ってやってきたというのが事実であります。

したがって、これからもそういう形がいいのかなとは思ってますが、なお、来年度の事業を組むときに検討してまいりますけど、一つちょっと足りない部分がありまして、それは何かというと、東京オリパラを我々ホストタウンとしてやったときに、もう一つの狙いが、例えばユニバーサルデザインのまちづくり。パラリンピックがあるわけですから、余計ね。それとスポーツ施設をこの際いろんな支援を受けて整備できないかと。とても手回らないんですよ、生涯スポーツ課。かといって公共施設整備課はもうめじろ押しですよ。建設課は建設課で大変だし。もうどうしようかと。あとは、もう一つはスポーツ庁の補助事業で、タンザニアの子供たちとか、そういう女性のスポーツする方にいろんなスポーツ用品を送りたいんですよ。最低でも半額補助、10割補助もあるんです。これらの担当できる手のあいている職員がいない。ここなども非常に問題で、ですから新たに課をつくるというのは、理想なんです、うちのような少人数の自治体ではなかなか難しいというふうに思いますね。それが証拠に、山形県内13市の中で、市であってもやっぱりホストタウンやり切れない市もありますし、町では唯一、1つだけですよね。ですからそういった課題があるんだと。それが正直我々の実力なんですよ。ですからそこをご理解の上、いろいろご助言いただければありがたいと思います。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** わかりましたが、やっぱり司令塔が1つないと働いている人も大変なのかなとちょっと思いましたので、ぜひこれも考えていただきまして、よい方向に行ってほしいと思いますが、市長、もう一度お願いします。

○**渋谷佐輔議長** 内谷重治市長。

○**内谷重治市長** やっぱり総合政策課の中に担当

はあるんですが、室にはまだしてませんので、室という形で、東京オリパラ、ホストタウン推進室とか担当室とか、室にして、少し人を充実させて、やっぱり司令塔になるような人をもう少し配置しながら横の連携をとっていききたいなとまずは考えているところです。よろしくお願ひします。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 2項目に入らせていただきます。地方創生人材の育成及び育成環境の整備に向けて取り組みの成果を問い、子供たちの将来に寄与するにはどのように進めていくのかについてお伺いいたします。時間がないので、1番、2番、3番をまとめてお聞きいたします。

通告書の1番については、3月に起業体験ワークショップを実施したわけですが、その内容をお聞きいたします。

2番目は、その参加された方の生徒の反応はどうだったのか。

3番目につきましては、今回5、6年生が対象だったということで、保護者の意見や感想などはお聞きになったのかどうか、地方創生参事にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘地方創生参事。

○**竹田利弘地方創生参事** それでは、お答えいたします。

ことし3月の起業体験ワークショップは、旧長井小学校第一校舎を活用した地方人材の育成及び育成環境の整備に向けて、地域全体が起業、創業に向かう機運を醸成し、その担い手となる起業家精神とスキルを持った人材を効果的に育てる手法の検討をする目的で、市内小学校の4年生から6年生24名に参加いただきまして開催いたしました。

前日の20日なんですけども、銀行員として今回、役としてご指導いただく山形銀行、荘内銀行、山形中央信用組合、米沢信用金庫及び会社運営を指導する山形大学の5人の学生の方にも

参加いただき、いわゆる指導方法についてトレーニングを受けております。

当日の21日でございますが、5つのチーム、およそ四、五人のチームで一つのチームをつくり、子供たちが協力して仮想の会社をつくることに挑戦しております。

具体的なプログラムでございますが、まずは会社をつくり運営する流れを子供たちに考えていただくと。次に、会社に必要な役割として、社長とか仕入れ担当、あと会計とか、あと販売のマネジャーとか、そういったものの役割分担をしていただくと。一人が必ず1つ以上の役割を持つということを理解いただいております。次いで、商品をつくるための市場調査、あとつくる商品の材料、デザインの検討、原価や販売価格の計算を行って、事業計画をつくります。その後に事業計画に沿って本物の銀行員の方から事業計画を説明して融資を受けます。今回のポイントは実はここでございまして、仮想の会社ですと、あくまでも仮想だけですと非常にリアリティーがないわけですけども、実際この計画ではだめだとか、ここを直せばできるとかということをしてじかの、本当の銀行員の方から教えていただくようなシステムで計画をいたしました。その後に、融資をもとに材料を仕入れ、つくった商品を販売するというので、最後に集計、決算を行い、銀行へ利子をつけて返したということを行いました。

このプログラムですけども、1日で会社の仕組みを学ぶことができる点が特徴でございまして、それぞれの場面では、失敗や、成功や、自分の役割分担をきちんと学ぶということがかなり効果的だったと思います。

あと、参加された生徒の反応でございますが、アンケートを全員から書いていただきました。学校ではできないよい体験ができた。ぜひまた参加したい。あと、きょうの経験を将来に生かしたいとか、あと、お金の大切さをちゃんと学

べてチームワークよくできたというところで、総じて参加してよかったという意見でございました。

あと、保護者の感想でございますが、おらんだラジオで当日取材しております。また、現場で担当の職員が聞き取りを保護者の方にしたところ、生き生きとチームワークよく取り組んでいるのが印象的だったとか、軽い気持ちで子供を参加させたけども、融資など本格的で驚いたとか、あと、ワークショップ参加後、子供が家業、家の仕事ですけども、に関心を持つようになったとか、総じてやはり保護者の方からも、参加させて子供が非常に成長したという意見をいただいております。

また、今回金融機関の方にも参加いただきましたが、非常にすばらしい取り組みで、子供たちがすごい頭がよいのに非常にびっくりしたという感想をいただいております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。何かすばらしい体験を子供たちがしたように思います。

4番に入ります。12月にもワークショップを行う予定であります。今回は対象が小学校から中学、高校となっておりますが、内容は違うのでしょうか。その点についてお聞きいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘地方創生参事。

○**竹田利弘地方創生参事** このたびのワークショップですけども、内容については、内容は同じですが、やはり対象が、学年が中学2年生から高校2年生となっておりますので、やることはかなり深掘りされた内容となっております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** 今後このワークショップを続けていくには、どのような形で進めていくのか、具体的な計画はあるのか、また、ワークショップは何を目指していくのかということを地方創生参事にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘地方創生参事。

○**竹田利弘地方創生参事** 昨年度から行っておりますワークショップですけども、先ほど申しましたように、旧長井小学校第一校舎を活用した地方人材の育成等を目指して、実証実験的に今取り組んでいるものでございます。現在行っている起業家教育でございますけども、小・中学生ではチャレンジ精神や課題解決能力、そしてコミュニケーション能力等の起業家精神を養い、高校生以上では、起業家精神の発展、深化とともに、経済の知識や経営ノウハウ等の起業スキルの習得を可能にするすぐれたキャリア教育の一つの題材としております。

今後ですけども、この取り組みを来春の春にオープン予定の旧長井小学校第一校舎を活用した地方創生人材の育成などに結びつけていきたいと考えてございます。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** ありがとうございます。

6番に聞こうと思ったんですが、今、話が出たんですけど、旧長井小学校の第一校舎で行う計画となっておりますというキャリア教育ですが、その連携はどのようになさっていくのでしょうか。地方創生参事にお伺いいたします。

○**渋谷佐輔議長** 竹田利弘地方創生参事。

○**竹田利弘地方創生参事** キャリア教育とは、一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを育成していくために必要な意欲、態度や能力を育てる教育で、起業体験ワークショップもその一つとして実施しております。旧長井小学校第一校舎の指定管理者を公募する際、長井市の未来を担う人材の育成や中心市街地の活性化に寄与するため、子供向けのプログラム、あと大人の学び直し事業、世代間交流、観光交流事業、これらを必須項目として仕様書に明示しております。この中の子ども向けの学びのプログラムについては、起業家育成やものづくり体験、文化交流体験などのキャリア

教育を想定しておったものでございまして、応募された事業者からも、長井の心育成と最先端の教育により、子供の生きる力を育む事業として、起業体験ワークショップやロボット講座、あといわゆる英語を学ぶ講座としてのレッツ・イングリッシュ・アット・ナガイなどの提案がございましたので、魅力あるキャリア教育のプログラムができると期待をしているものでございます。これらのプログラムは、文部科学省から派遣いただいている泡瀬栄人地方創生戦略監が中心となって進めております長井に住みながら世界を相手にビジネスできる子供を育てる事業の考え方とも一致するものでございます。

また、地場産の振興センターで行っているビジネスチャレンジコンテストも長井の地で起業、創業できるような若者らを創出する目的で実施しており、先ほど述べましたキャリア教育とも連携していかなければならないものと考えております。

また、長井商工会議所青年部でも、小学校5年生と6年生を対象に、7月から11月にかけて、模擬株式会社を設立し、計画、仕入れ、製造、販売、決算、納税までの一連のサイクルを体験するジュニアエコノミーカレッジを行ってまいりました。実際に現金を取り扱って商売の体験をし、商品のアイデアから売り方、利益額など、より実践的に取り組んでいくことによって、子供たち自身が大きく成長できるような内容になっており、成果の結果、納税として11月25日に、市長のほうに収益金の10%の額、7,900円を市にご寄附いただきました。

旧長井小学校第一校舎で行うキャリア教育は、このような多様な取り組みとも連携していく必要があると思っております。

○**渋谷佐輔議長** 6番、鈴木富美子議員。

○**6番 鈴木富美子議員** キャリア教育を通して起業の意識を高めるって素晴らしい事業だと思いますが、それも本当に大事ですが、地域への

愛着を高めたり、地域の資源や地元企業にもっと目を向ける機会を持つことで、早い段階からUターンに興味を持つという基礎もつくることですが、それも大事なのではないかなと私は思いました。せっかく長井で育って高校まで地元に住んでいますが、地域の課題や地元の企業への関心がないまま地元を離れ、東京で就職して定着するというケースが多い中で、このキャリア教育は本当すばらしい教育なので、ぜひ長井市のこともいろいろ教えていただきながら進めていただければと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

## 散 会

○**渋谷佐輔議長** 本日はこれをもって散会いたします。再開は明日午前10時といたします。ご協力ありがとうございました。

午後 4時19分 散会